

第12回 米代川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

日程：令和5年10月3日（火）13：30～15：30

会場：能代河川国道事務所 第1会議室

○：委員からの質問・意見

●：事務局からの回答

議事：米代川水系河川整備計画（素案）について

○資料－2の8ページに「昭和46年施行以来は銅を始めとする重金属の濃度が低下、現在は殆ど……」この「殆ど」という言い方がよい。

●水質の状況については、データも蓄積している。今後も注視していきたい。

○豊かな米代川では、アユやサクラマスなどがいっぱいいる。

資料－3のP25～26などに見られる「斜め掘削を基本とし」と書いているが、全てが同じ掘削方法に感じられる。

●今回河道掘削形状のイメージとして示しているが、これを基本事項として個別にどうやっていくかという具体的なところは今後先生のご意見を踏まえながら検討していきたい。

○河川の正常流量について、動植物等を守るという考え方で最低限のものは決まると思うが、いろいろ改変したときに正常流量はその場所、場所が変わってくるものなのか。

●正常流量については基準地点二ツ井で評価しており、概ね45m³/sとなっている。

○緩勾配の掘削の絵が載っているが、河道掘削の基本的な考えとして、低水位以下は掘削しないということになっている。緩勾配で掘削となった場合に、平水位以下には入らないような緩勾配で掘削と考えているのかどうか教えてほしい。

●平水位掘削は基本ではあるが、例えば水際に向けて緩く切って、水が浸かりやす

くすることを期待した考えである。

○超長期的な意味での整備計画というのがあってもいいのではないか。河川流域全体をどうコントロールしていくのか、例えば将来そういった河道掘削等があまり必要ではなくなるような形でどう考えていったらいいのかというところがあってもいいかと思っている。

ダムという案も、ダムからの得られるベネフィットというのはかなりあると思われるし、それに関してもう少し検討されたほうがいいのではないのか。

●比較案はあくまで治水対策での案で、純粋な同じ土俵での横並びだということは理解いただきたい。

現在この懇談会で議論、審議しているのは、おおむね20年から30年ぐらいのスケール感、時間的な感覚のものを議論している。もっと長期的なものというのは河川整備基本方針というのがあり、それが指摘されている長期的な全体的な計画であるが、100年に1度ぐらいのを対象にした計画となっている。それが気候変動をまだ考慮していない計画になっているため、これから河川整備基本方針の改定がこれからまた数年後に出てくるので、そのときにまたこういう格好で議論することになる。

○現在の整備計画の雨量×1.1について、パブリックコメントを出すときに、この1.1というのはどうやって出されたのというところは、もう少しわかりやすいものが必要ではないのかなと思われる。

●気候変動対応として雨を1.1倍にするというのは、行政としては当たり前のようになっているが、一般の人がその1.1とは何かと聞かれた場合のコメントは考えておかなければならないと考えている。

○河道の維持管理で、河道掘削を行って何年か後あるいは何十年か後に土砂のたまるところが出てきて、そこにまた植物が侵入して動物も入ってくるサイクルになるかと思う。河道掘削を一度行った場合、何年ぐらい有効期間があるものか。

●土砂の再堆積については、既に河道掘削が終わった箇所のモニタリングを行っている。結果としては、実は再堆積が多くない場所もあれば堆積しているところも

あり、例えば蛇行部や流量などいろんな要因でそうなっているのかなと思う。今モニタリングしている限りでは、場所によっては3年ぐらいでたまり始めているところもるし、今回新しい整備計画ではなるべくたまりにくいような掘削断面で考えているので、モニタリングを継続していきたい。

○無堤箇所などでは輪中堤や家屋移転等による対策というようなことも書いてあるので、地域住民のご協力得ながら、どうしてもそういう地域は流域治水もやっつけていかなければいけない。家屋の移転含めたそういう方々に対するお願いをしていくとか、そういう我々の覚悟も必要なのかなと思っている。

○今回素案が示されたことに新たな計画では過去に起こった洪水の実績だけではなく、近年の気候変動による豪雨災害リスクも加味した計画とすることにより本河川のさらなる安全が図られていくことと大変心強く我々も思っている。

○米代川の河川整備計画は17年に策定され、当初は30年ということですから、令和17年ぐらいで終わるところだった。本来ならばまだ整備計画の途中で、流量を増やして、増えた段階で元の目的を達成すると理解されます。同じ目的を達成するのに18年遅れているように見える。

●今の整備計画はおおむね30年といった中で、いろいろ加速度的に推進をしてきたというところ。20年ぐらい経過して、事業としてはおおむね終わりである。そこで新たな整備計画を策定し、おおむね30年と考えている。

○配分流量の記入について、7,100m³/sであったものが7,900m³/sになるというところ。元の7,100m³/sというのは実際にその川で流せる流量で勘定してる。書き方を今後そういうふうな書き方にするのだというのであれば、特に問題はないが、将来災害が起こったとき、例えば本来7,600m³/sぐらいしか流せないところを7,800m³/sが来た。だけれども、こちらの資料では7,900m³/sと書いている。安全に流せるはずじゃないのか。だけれども実際は流せない状況。将来不利な状況になるのではないかなと個人的には思った。

●今回遊水機能も含めた形で7,900トンと記載した。その書き方は、今後他水系で

も同様となると考えている。7,900として書いているが、米印として河道掘削などで7,600、プラス遊水機能で300として、河道掘削などの整備によって7,600までの河道を目指す考えで記載しているもの。

議事：パブリックコメントの募集方法について

- 概要リーフレットのポイント3について、流域治水と一体となり地域と連携した環境を形成してとあるが、何をどういうふうにつくっていくのかがよく分からない。
- ポイント3については、少し肉づけして内容を増やしていきたい。

- 概要リーフレットについて、住民は自分のところの被害が軽減されるかどうかというのが一番気にしている。一般の方々に分かりやすい資料にしてほしい。
- わかりやすい資料となるよう修正する。

- 意見等は恐らくカテゴリーに分けて集計されると思うが、それに加えて、例えば流域内か流域外からの意見なのかとか、流域の中でも上流のほうの方からの意見なのか、中流のほうの方の意見なのかとか、それからあとはハザードマップにかかっている方々からの意見なのかそうでないのか、そういったものを含めて仕分されると、集まった意見に加えてもうちょっと深い思いみたいなものも見えてくる。整理の仕方等の工夫をお願いする。
- 意見書の中でお住まいの市町村を書く欄があるが、市町村名までしか書かないような形になっているので、詳しい住所まで記入いただけるよう変えたい。